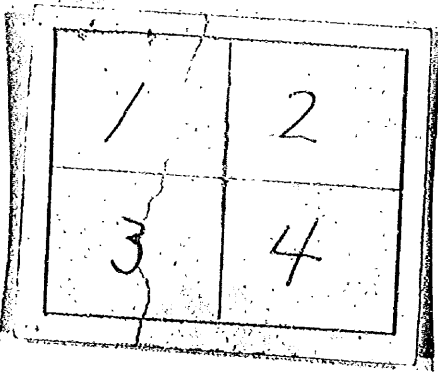


小 二	小 一	部 本
少尉 服部 茂洋	中尉 原田	
右 同	右 同	京
右 同	右 同	京
同 右	同 右	

三三三

分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

第 二 〇 一 〇 軍

部隊名 第一四八師團兵器勤務隊

通稱號

富嶽三七三三二

郵便所名

全般概要

轉入
十九年以降

轉出
十九年以降

員人制編

別 隊
隊長名
(内は先代を示す)
大尉 海田 富一

戰 團人
時員

駐屯地
平 時
京 新

戰 時
京 新

戰鬥間の狀況及損耗

轉戦後の人員變動

作業大隊より
入ソソ迄の變動

隊別計
入ソソ人員

滿洲殘留

收

二〇、八一〇、四下今
二〇、八一五、海兵(新隊)
下十位以上各引揚隊等は、
悉皆現役(五次海軍部除より
轉入)
閉隊時人員八〇名
(將二員、士三十三名、兵六六名)
日ソ別隊より閉隊時兵隊の
投助業務並に工具の修理
部隊の業務區分並に之に依
る隊内
御手洗少尉の指図する一小
隊、新京西方面、油桶場、海軍
隊本部、大陸科、供設に移駐す

112

部 本

<p>二〇、八一、下 武蔵新官、武新後備隊五旅 隊に收容さる。 編隊約十三名 御手洗少隊 二 本 隊 一 其の値 官 員 三名 其 他 下 士 二</p>	<p>二〇、九、二四 新京七六へ 海兵委員六〇名編入 海田大尉、海兵少尉殘留 P.O. 海田大尉一、五〇〇 二〇、九、二七 新京海兵隊編入</p>												
---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

部隊名

第一四八師團兵器勤務隊

通稱號

富

郵便所名

出

編

隊

隊長名
()内は先代を不す
大尉 海田 宮

戦時

戦時

戦時

戦時

戦闘間の状況及損耗

終戦時
の
變動

作業大隊より
入ソノ迄の變動

入ソノ人員

満洲残留

收容所名

死亡

満洲ソノ
より
人員

状況不明
者
数

本

新

新

パン
チ
カ

所

死

計

者

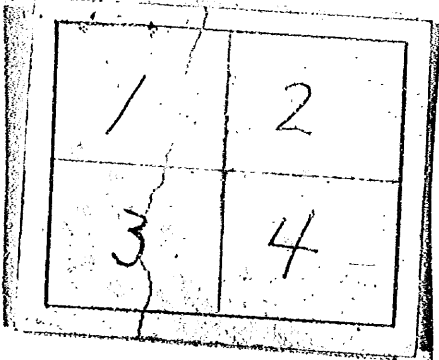
数

二〇、九、二四
東京大、兵部全六〇名編入、
海田大尉、津田大尉、五〇〇
二〇、九、二七
東京大、兵部全六〇名編入、
海田大尉、津田大尉、五〇〇

フ
ラ
タ
マ
シ
ヤ

マ
ン

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

昭和十九年

三〇軍

部隊名第一四八師團衛生隊

通稱 號 富嶽三七三三三

郵便所名

全般概要		昭和十九年	
轉入	轉出	人員編	別
十九年以降	十九年以降	隊長名	()内は先代を示す
戦時	平時	駐屯地	戦時
戦闘間の状況及損耗		終戦後の人員變動	
作業大隊より		入ソノ人員	
入ソノ運の變動		隊別計	
満洲残留			

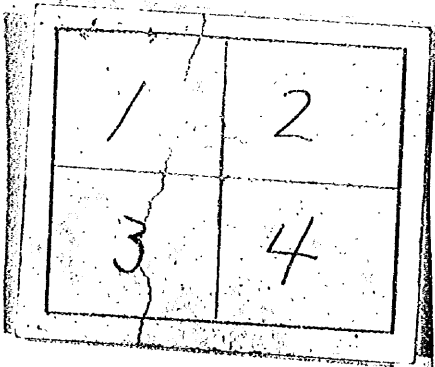
部隊名 第一四八師團衛生隊

通稱 號 富嶽三三三三三

郵便所名

出降	員入調編	別 隊	隊長名 ()内は先代を示す	戦時 人員	平時	戦時	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソノ迄の變動	入ソノ人員 隊別計	満洲残留	收容所名	收容所 人員	死亡	満洲ソ領 より計	歸還人員	状況不明 者数

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1631
1632

北支
北支
北支

全般概要	三〇軍	
	轉入	轉出
買入額	別隊	
隊長名	()内は先代を示す	
駐屯地	戦時	平時
戦時	駐屯地	
	戦時	平時
戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	
作業大隊より	入ソノ人員	
入ソノ迄の變動	隊別計	満洲残留

部隊名 第一四八師團第一野戰病院

通稱 越富嶽三七三三四

郵便所名

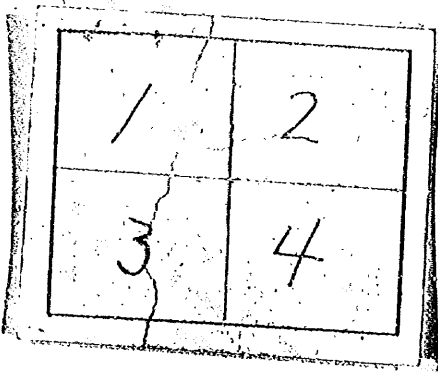
部隊名第一四八師團第一野戦病院

通稱 警備隊三七三三四

郵便所名

員人編	隊	隊長名	戦員	駐屯地	戦闘間の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソンの變動	入ソンの人員	滿洲殘留	收容所名	收容所	歸還人員	状況不明
別	()内は先代を示す	戦員	平時	戦時									

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

陸軍省
陸軍部
陸軍省
陸軍部

三〇軍
部隊名第一四八師團第二野戰病院
通稱 富嶽三七三三五
郵便所名

全般概要	
十九年以降	轉入
十九年以降	轉出
員人編	
別 隊	
()内は先代を示す 隊長名	
時員	開入
平	駐屯地
時	戦時
戦闘間の状況及損耗	
終戦後の人員變動	
作業大隊より 入「ソ」迄の變動	
隊別	入「ソ」人員
計	満洲殘留

九年以降
出

員人制編

別 隊

隊長名
(内は先代を明示)

時戦 隔人
員員

駐屯地
平時 戦時

戦闘間の状況及損耗

終戦後の人員變動

作業大隊より
入ソ」迄の變動

隊別
計

満洲残留

收容所名

所人 死亡

満洲ソ領
よりより
計

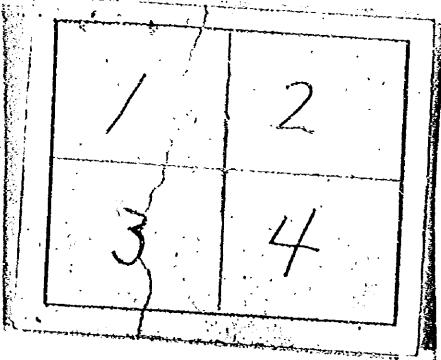
者 状況不明
数

部隊名第一四八師團第二野戦病院

通稱 富嶽三七三三五

郵便所名

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

三〇軍

部隊名 第一四八師團病馬廠

通稱 號 富嶽三七三三六

郵便所名

全般概要	轉入	轉出	員人制編	別隊	隊長名 (内は先代を不す) 中尉 細川 甚六	戰時人員	駐屯地 新 京 新 京	戰鬥中の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より入「ソ」迄の變動	入「ソ」人員 除別計	滿洲残留
二〇、七、一〇 編制令 二〇、八、五 編制令(新京) 別戰時人員八五名 戦時準備 態勢をとるも終戦			119	本 部								
八、一七 武部(新京)												
八、一九 新京郊外大陸科 學院に移動												
八、二〇 南嶺隊隊四												
九、五 主力に南嶺に移動 作業大隊編成さる 新京七大森田大尉以下一五 〇〇 病馬廠より五〇名編入さる 細川中尉編成外												

部隊名 第一四八師團病馬廠

通稱號 富嶽三七三三六

郵便所名

出		119		人員副總	
別		本		隊	
隊長名		中尉 細川 基六		() 内は先代を不示す	
戰時人員		駐屯地		新 京	
戰時人員		駐屯地		新 京	
戰鬥間の狀況及損耗					
終戦後の人員變動					
作業大隊より入ソレ迄の變動					
隊別計		入ソレ人員			
滿洲殘留					
收容所名		收容所			
人員死亡		人員死亡			
滿洲より歸還人員		滿洲より歸還人員			
計		計			
者數		狀況不明			

二〇、六一〇類、今
二〇、八、五編完（東京）
六、七、八、五各巻に於て
記載せらるる者あり

八、一七（武蔵（東京））

八、一九（東京）外大醫學
部に移動

八、二〇（南支那）

九、五 主力は南支に移動
作業大體完成
○ 東京七大津田大尉以下一五
病房より五〇名編入
○ 細川中尉編成外

部 本

東京

京 新

京 新

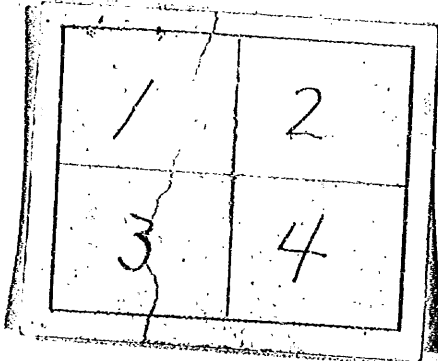
本 巻

三
巻
三
六

新 京

新 京

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

陸軍省
陸軍部
陸軍省
陸軍部

三〇軍

部隊名第一四八師團防疫給水部

通稱 警備隊三三三三七

郵便所名

二〇、七、一〇 部下令
編成人員一九名

全級概要	轉入	轉出	編制人員	隊別	隊長名 ()内は先代を不す	關人 戰時	駐屯地	戰鬥間の狀況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソシ迄の變動	入ソシ人員 隊別計	滿洲殘留
	十九年以降	十九年以降										

部隊名第一四八師團防疫給水部

通稱 砲臺嶽三三三三七

郵便所名

隊員編	隊別		隊長名 ()内は先代を不す	開入 戦時	平時	戦時	駐屯地	戦闘中の状況及損耗	終戦後の人員變動	作業大隊より 入ソ運の變動	入ソ人員	満洲残留	收容所名	收容所	死亡	満洲より 領計	歸還人員	者数	状況不明

〇、七、一〇
八、二、一九

